

鹿児島大学数理情報科学談話会

第236回

日時：2019年7月10日（水）16:30 - 17:30

場所：理学部2号館404室

講師：小川 泰朗氏 (名古屋大学)

題目：余傾斜対象を通じた特異同値な環の構成について

Abstract: 多元環の表現論における主たる目的の一つは、多元環を何かしらの意味で分類することである。例えば、与えられた2つの多元環が森田同値であるとは、それらの加群圏の間に圏同値があることを言い、これは環同型による分類よりずっと”粗い”。

本講演では、森田同値よりさらに”粗い”分類である特異同値に着目する。特異同値（より正確には特異圏）とは Buchweitz により導入された環の不変量であり、以来、表現論のみならず他分野での応用も目覚ましい。それ故、特異同値な多元環の構成法を与えることは基本的な問題であると言える。例えば、松井、高橋は与えられた Iwanaga-Gorenstein 環から特異同値な環を構成する手法を与え、Xiao-Wu Chen は多元環とその冪等元部分多元環が特異同値となる十分条件について考察している。

本講演では上述の手法をそれぞれ一般化し、特に余傾斜対象から特異同値な環を構成する手法について紹介する。